

1. 認知症サポーターの活用について

地域からのどんな支援があれば、認知症やその家族が過ごしやすいかまた、どのような場で活動できると思うか

意 見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽な相談相手から、各種サービスにつながる。 ・ 買い物先、銀行の窓口、クリニック、宅配業者等、企業のサポーターからの情報から認知症発症が疑われ困っているような家族等の支援につながる ・ オレンジサポーターの活動は高齢者の心の安定を図れる素敵な事業。個人宅への傾聴利用ができる情報、地域の公民館を定期的 に開いてチームオレンジのメンバーが対応する。 ・ 散歩に付き合いながらふれ合う（希望者） ・ 軽度認知症の方に市独自のヘルプマークをアレンジしたものを外出時に装着していただき、その方が一人でスーパーや銀行にいるのを見かけたら、積極的にサポーターから声を掛けてもらうのはいかがか。 ・ 日常的に利用する場（スーパー、コンビニ、薬局等）の従業員の見守りを強化することは効果的。それらの商業施設の管理者を対象にした施策を打ち出せるとよい。 ・ 地域のなじみの方による外出支援。家族が休息できる仕組みがあるとよい。気軽に日々頼める場。 ・ 福祉カフェと抱き合わせで、会場を提供しコーヒー等提供。共同企画していく。 ・ 認知症について正しく知ることが手助けにつながる。まずは知っていることで何をすべきか、その人の立場に立った手助けにつながるのでは。当事業所としては希望する方があればボランティアを受け入れをしたいと思う。 ・ 実際に体験することが、認知症への理解につながる。 ・ 認知症の人やその家族がに何に困っているか何があると過ごしやすくなるのかを聞く機会を設ける。そのうえで、地域の人に投げかけると「これなら地域でできる」「これはできないけど、こんな支援があればできるかも」などの意見があがるかもしれない。 ・ 座談会やボランティア団体の集まる茶話会等、地域福祉の推進を目的とする社協と協働し、地域の方が集まる場を企画する ・ 清須市パトロールDOGSの考え方は非常に良いと思う。何か新しい行動を住民にお願いするのではなく、住民が普段している行動と事業活動を結び付けることができれば住民に負担は少なくなると思う。このようなマッチングをすることで、住民の意識を高めることにつながるのでは。 ・ 普段の生活の中での見守り、認知症サポーター養成講座での寸劇、RUN伴 ・ 将来的に地域の空き家店舗、喫茶店等でサロン形式でのカフェの実施 ・ 予防・啓発として、脳トレの自主グループの活動を広げる。

2. 市の認知症施策等への意見

意	見
<ul style="list-style-type: none">・ 成年後見制度利用についての基礎知識啓発・ 地域の困った人の把握を地域の総代を含めた役員・ブロック長・ヘルパー・民生委員・デイサービス職員・医師の方々が情報共有しつなげる・ 長谷川式を考案した長谷川医師が認知症を発症した様子のドキュメント番組を視聴した。デイサービスのレクが先生自身興味がなくつまらないので行くのをやめた、と。すべての人の要望に沿うのは難しいが、ご本人がやりたいことをご本人から聞くことは大切ではないかと感想をもった。・ 認知症サポーターに活躍してもらうためには、まずは市として仕掛けをしていくことが大事（メールで情報配信、徘徊高齢者捜索模擬訓練等）・ 個人でできることや福祉カフェやイベントの情報提供をしていくことで少しずつサポーターの意識が変わっていくのではないかと思う。・ 商工会などとタイアップし、企業向けに力を注ぐ。・ サポーターそのものの認知度を上げて市民に知ってもらう。・ ある商店街ではサポーターステッカーを店先に貼り、認知症やその家族が安心して入店できるようなまちづくりをしている。店員に単にサポーターになってもらうのではなく、認知症の方と思われる人が見えたらどのようにネットワークをするのかの仕組みづくりを市で作る必要がある。	